

卒論へのいざない:きっかけは“怒り”

ENAPXHIHNHOPTH

メインテーマ(古代ギリシャの民主政思想)にたどりつくまで

α (アルファ)、 β (ベータ)、 γ (ガンマ)、、、、これは今から2500年以上も前にさかのぼるギリシア語の文字です。皆さんも数学で、 Σ (シグマ)、 θ (テータ)、 π (ピー)などを目にしたことがあるでしょう。こうした文字で書かれた書物を読み解き、古代ギリシア人の民主主義についての考えを探ることが私の主たる研究テーマです。

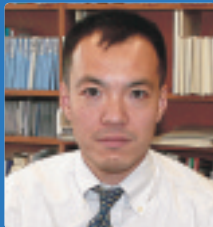
もともと、歴史や思想が好きだったから、こうした文字を読み始めたわけではありません。私が大学に進学した頃は、リクルート事件や消費税導入などで、政治不信や政治腐敗という言葉がマス・メディアから頻りに流れていました。当時浪人生だった私もこうした時勢の影響を受け、日本の政治に対して大いなる不満や憤りを抱き、大学では日本の政治の問題点や改善策を学ぶことにしました。つまり、現在の専門分野を志したきっかけは、自分が今生きる社会に対する“怒り”だったという訳です。

ではなぜ、現代政治に対する怒りが古代ギリシアとつながったのでしょうか。そこに学問の奥深さがあると言えます。今日では世界中で、民主主義が理想とされていますが、でも、ちょっと待てよ！たまにある選挙で一票投票するだけで、本当に主権者と言えるのかなあ？今の政治の諸制度は文句なしに優れていて、問題はそれを活用する国民や政治家にあるのかなあ？そもそも民主主義とは、一体全体、何なのかなあ？こうした疑問を経て、挙句の果てに、民主主義を発明したと言われる古代ギリシアにたどり着いたのです。

- 社会学Ⅰ・Ⅱ
- 社会科学基礎論
- 社会思想史Ⅱ
- 学問研究入門

名和 賢美

(なわ けんみ)



1970年生まれ。山形県酒田市出身。社会学博士。一橋大学助手などを経て、2007年より現職。デモクラシーについて、古代ギリシアを皮切りに時代社会を問わず調査研究中。特技は保育園への送り迎え。

サブテーマは教養教育

そしてもう1つ、大きな研究テーマがあります。それは皆さんと大いにかかわりがあることで、新入生は前期に何を身につけるべきか、というテーマです。この課題もまた、現行の教養教育システムでは駄目だ、という不満から生まれました。全く思いもよらなかったことに、教養教育の起源も同様に古代ギリシアまでさかのぼります。私の担当する教養科目はいずれも、こうした古代を含めた教養教育研究をもとに実践しており、その結果、全国的にとっても珍しい講義と言えます。詳しくはその講義で。

卒論こそ大学教育のTEAOΣ(最終目標)

民主主義も教養教育も、現実に対する怒りや不満から出てきたテーマです。皆さんも世の中に対して、何か頭にきていること、怒りが収まらないことはありませんか？そうした気持ちを大切に、さらに深く掘り下げ、とことん考え抜いていくと、自分の研究テーマにつながります。胸に秘めた自らの問題関心を大切に育み、卒業論文としてまとめ上げる。これこそ大学教育における醍醐味なのです。